

巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 環境研究所 紀要編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1787

巻 頭 言

武蔵野大学 環境研究所 紀要 第11号

武蔵野大学環境研究所紀要は2012年第1号に始まり、今回で第11号となります。10年一区切りで考えると、この第11号から第20号の発刊期間は「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す」国際目標（SDGs: Sustainable Development Goals）が掲げる2030年をまたぐことにもなります。第21号が発刊される際にふりかえると、持続可能性に関連する何か目印のようなものが紀要の中に見てとれるかもしれません。

今回、新しい区切りとなる第11号を最後に環境研究所所長、ならびに本紀要編集長を務められた一方井誠治先生が2022年3月をもって退職されます。一方井先生は1974年に東京大学経済学部を卒業された後、環境庁（現・環境省）に入庁し、2005年京都大学経済研究所教授を経て、2012年に武蔵野大学環境学部へ赴任されました。また、2015年より武蔵野大学大学院環境学研究科長を務め、大学の管理運営にも一方ならぬ貢献をされてきました。特に当研究科の発展に尽力され、その在職中に環境学研究科博士後期課程が設置されております。また、2021年には瑞宝中綬章を受章されました。

環境学研究科では、地球温暖化対策の経済的側面に関する調査研究や、環境と経済の統合などをご専門とされ、一貫して学生への深い愛情をもち、多様な人材を世に送り出してきました。また、研究成果は「コア・テキスト環境経済学」、「新環境政策論」でも紹介されており広く一般に目にすることができます。

今回、その研究成果の一部と今後の環境学研究に期待する指針を紀要に掲載いただきたく編集委員会をお願いしたところ快く執筆いただくこととなりました。

一方井先生は、退職後も研究を継続され、成果を発表していく意欲満々です。ご定年で退職されますことは、環境学研究科はもとより武蔵野大学にとっても極めて大きな痛手ではありますが先生の第二の人生の門出を一同とともに祝したいと思います。

先生には、ご退職後も、名誉教授として、引き続きご指導を賜ることとなりますが、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

2022年2月吉日
環境研究所 紀要編集委員会